

つ き い ち

月1原発映画祭 + 交流カフェ

～映画でみる・知る・感じる原発～



会場：谷中の家（台東区谷中3-17-11）

3.12を忘れない

第14回

6月1日(土)

【昼の部】13:00～15:30（上映のみ） *開場は各30分前
【夜の部】17:00～20:30（上映+交流カフェ）

夏休みの宿題は終わらない

英・仏核燃料施設周辺に生きる人々と出会って...



(制作・インタビュー: 倉岡明子 / 監督・撮影・編集: 山部伸貴 / 1989年 / 130分)

フランスのラ・アーグ、イギリスのセラフィールドの核燃料再処理施設がもたらしている放射能汚染による健康被害について、地域住民たちの切実な証言を取り上げたドキュメンタリー。1988年夏の約1か月間、親子3人で旅をしながら各地でインタビューを敢行、人びとの日常生活の喜怒哀楽を交えて記録しながら、核燃料再処理施設と共に生活する現実に向き合う。

■参加費：1000円、学生500円、中学生以下無料

*交流カフェは別途、飲食代として500円～カンパをお願いします。

■定員：昼・夜各30名（必ず予約をしてください）

■申込み方法：①HPの申込みフォームから
昼の部 <http://kokucheese.com/event/index/89038/>
夜の部 <http://kokucheese.com/event/index/89040/>
②メール masa5884@y8.dion.ne.jp

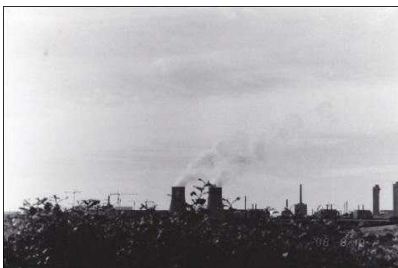
*件名を「月1原発映画祭申込み」として参加内容（昼・夜の別、交流カフェ参加有無）を明記してください。

③電話 050-3059-6328（小林）

■当日問い合わせ：電話090-1265-0097（植松）

交流カフェゲスト＝倉岡明子さん（制作・インタビュー）

1947年青森市生まれ。フランス大使館、アテネフランセ文化センター勤務後、現在はフリーランスの仏語通訳と日本語・仏語教師。1978年に長編記録映画『東京クロム砂漠』を自主制作、81年に青森県六ヶ所村に入り、約3年にわたって村の人びととその生活を記録。撮影中の84年に六ヶ所村への核燃料サイクル基地立地要請が浮上、その時から仏・ラ・アーグや英セラフィールドに住む人々に直接会って話を聞きたいと願いつづけ、のちの『夏休みの宿題は終わらない』の制作につながった。『六ヶ所人間記』は85年完成、86年マンハイム国際映画祭特別賞を受賞。



◆月1原発映画祭について

原発に関連した映画・映像を上映し、ゲストを迎えてお話を聞いたり、意見交換・情報交換をしたり、日ごろの思いや疑問を語り合ったりする交流の場を提供しています。脱原発を願う人も、脱原発に疑問を持つ人も気軽にご参加いただける会をめざしています。

会場は東京・谷中の家 → → → → → → →
開催のご案内やこれまでのレポートは、ひがし広場HP
(jtggt@yahoo.co.jp) からご覧になれます。

*

2012年5月から毎月1回、第1土曜日に開催、ちょうど1年が過ぎました。2年目からは偶数月(6、8、10、12、2、4月)の第1土曜日を月1原発映画祭「本祭」として、これまでと同様に「映画上映+交流カフェ」を開催し、奇数月については「陰祭」としてスタッフ勉強試写会に充てることといたしました。

「本祭」の企画をより充実させるための時間をしばし持ちたいと思います。

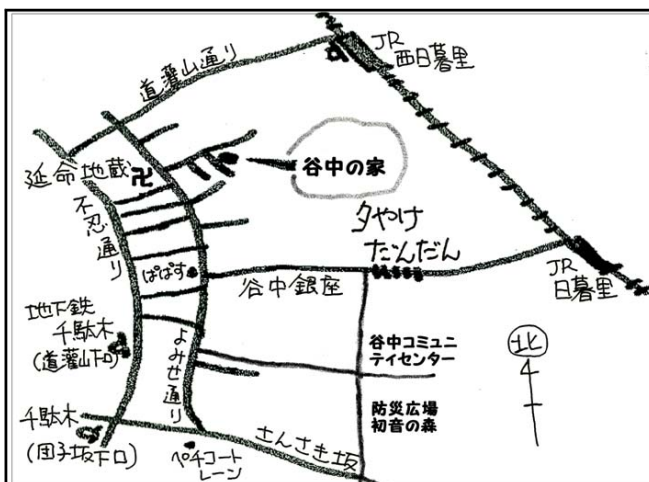
どうぞ偶数月の「本祭」には奮ってご参加ください。奇数月のスタッフ勉強試写会は、スタッフ限定となりますが、「スタッフ希望」の方もご参加いただけます。というわけで・・・

★★★スタッフ大募集!! ★★★

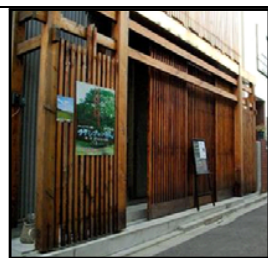
月に1～2回のミーティングとふだんのメールのやりとりで、企画・運営を進めています。ご都合に応じて

可能な範囲での参加でOKです。やってみようかな?と思われたら、どうぞお気軽にお問い合わせください！
ひがし広場HPの問い合わせフォームから、または、メール (uematsu@kdd.biglobe.ne.jp 植松宛) にて。

●谷中の家●



東京都台東区谷中3-17-11
メトロ千代田線千駄木・JR日暮里・
JR西日暮里下車徒歩7分。よみせ
通り、延命地蔵を東へ入る、2筋
目を南へ入って東側。築54年の
木造耐震補強民家。目印は格子戸。



7月6日(土)

第15回＝陰祭 スタッフ勉強試写会〈スタッフ募集!〉

8月3日(土)

第16回＝本祭「こんにちは貢寮(コンリャオ)」上映

1991年、日本から輸出される原発に揺れる台湾の貢寮で、原発に反対する青年が無実の罪で投獄された。それから7年、獄中に向けて一人の女子学生が手紙を書き始めた。進んでいく工事のこと、それでも反核を貫く人びとのこと、そして志半ばに亡くなっていく老人たちのこと。原発をめぐる歴史の中で、政治でもなく、経済でもなく、科学でもない、本当に信じるべきものがきらめき始める。新鋭ドキュメンタリー作家、チェ・スーシンが6年の歳月をかけた珠玉の作品。

(監督:チェ・スーシン/台湾/2004年/カラー/89分 <http://www.selectourfuture.org/gongliao/>)

ゲスト＝陳威志(ダン・ウィジ)さん(一橋大学社会学研究科修士課程。来日以前、第4原発反対運動に取り組む台湾緑色公民行動連盟に勤務、チェ・スーシン監督と元同僚) ― 当日は、映画の背景や、今年台湾で行われる予定の国民投票のことなどお話しいただく予定です。詳細が決まりましたら、HPでご案内します。

◆ひがし広場に参加しませんか？

地域から未来をつくる・ひがし広場(略称・ひがし広場)は、文京区、台東区、北区、足立区などの地域の住民有志が集まってつくっているネットワークです。原発都民投票条例をつくるための署名活動から生まれました。署名集めから都議会での可決を目指すプロセスで、私たちは1人ひとりが主体的に考え、行動して社会に働きかけていくことの大切さを知り、同時にそれを地域のつながりを生かして進んでいくことの楽しさを知りました。"社会の現状を知る、学ぶ、そして変えていくために主体的に行動する"という趣旨のもと、メーリングリスト(ML)で随時情報交換をしながら勉強会などをこなっています。HPのお問い合わせフォームからML登録申し込みできます。ぜひ一緒に！

主催 地域から未来をつくる・ひがし広場
<http://www.jtggt.info/>